

BCP維持管理研究会の活動

2013年5月13日

特定非営利活動法人 事業継続推進機構 (BCAO)
BCP維持管理研究会

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

活動メンバ (登録38名：2013年4月現在)

No,	氏名
1	深谷 純子
2	中谷 明男
3	田中 弘明
4	石井 洋之
5	上田 明
6	小田 浩史
7	織田 始
8	金澤 泰伸
9	亀原 栄二
10	金 堯燦
11	國貞 至
12	窪谷 貴正
13	小村 秀生
14	西條 聖史
15	佐伯 和彦

16	佐藤 栄治
17	澤田 信人
18	篠原 光男
19	白澤 健志
20	高橋 哲朗
21	竹中 雅英
22	寺岡 千年
23	中山 亜佐子
24	橋本 一朗
25	平井 美那子
26	平川 健一
27	平林 滋
28	松下 浩基
29	松本 茂
30	元木 秀樹

31	北川 裕章
32	武多 信幸
33	渡辺 淳
34	林 行範
35	高桑 歩美
36	山田 徹郎
37	内山 貴史
38	鮎川 雅俊

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

2012年度活動サマリー

外部施設見学2回を含む11回の研究会を開催、のべ約130名が参加

回	活動日	参加メンバー数	活動内容
19回	4/13(金)	11名	ANA安全教育センター見学
20回	5/30(水)	15名	全日空 羽田危機管理センター見学
21回	6/28(木)	12名	BCM手引書に関する意見交換
22回	7/19(木)	13名	BCM手引書に関する意見交換
23回	9/27(木)	12名	コミュニケーション戦略、FISC紹介、BCM手引書
24回	10/25(木)	13名	訓練体系、TC223、意見交換
25回	11/29(木)	12名	本部発動訓練事前打合せ
26回	12/14(金)	15名	本部発動訓練・忘年会
27回	1/25(金)	12名	訓練演習評価、BCP用語
28回	2/27(水)	11名	BCP用語・維持管理手引書
29回	3/28(木)	9名	ダボス会議報告・BCP用語

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

ANAグループ安全教育センター見学

ANA Safety Education Center： 大田区下丸子

ANAグループ全職員が過去の事故の経験とヒューマンエラーについて学び、一人ひとりが安全運航について何ができるか考える学び舎



事故の記憶を風化させない



ヒューマンエラーを体感



自分の役割を学ぶ

1. 安全についての定義：「危険が許容可能な水準に管理された状態」

2. エラー、ミスの報告者を厳罰しない文化： 報告しやすい環境、ヒヤリハットを共有し事故防止につなげるエラーマネジメントの実施

3. 過度に集中することの危険性やタイムプレッシャーにあっても基本確認作業の重要性、ひと言添える、具体的内容を添える「安全会話」の重要性

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

全日空 羽田危機管理センター見学

主な気づき

合理的な情報共有

- ・ 会話の内容を他の人も聞く

明確な危機管理体制

- ・ ボタンひとつで要員を招集
- ・ 座席で役割が決まっている
- ・ 体制図を壁に掲示



自社の取り組み
に参考になる点
が多い

業態は違っても
基本的な部分は
同じ

実効性の追求

- ・ マニュアルは常に更新、紙でも保管

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

BCP維持管理手引書の作成

日常のBCM運用に必要なポイントを記載した手引書。(44ページ)
BCP作成後の訓練など、BCP維持管理に利用を目的。

事業継続マネジメント(BCM) 運用者のための手引書

2013年3月25日
(第3版)

BCAO
BCP維持管理研究会

BCP維持管理研究会のメンバーが作成したものであり、BCAOの公式見解ではありません。

目次

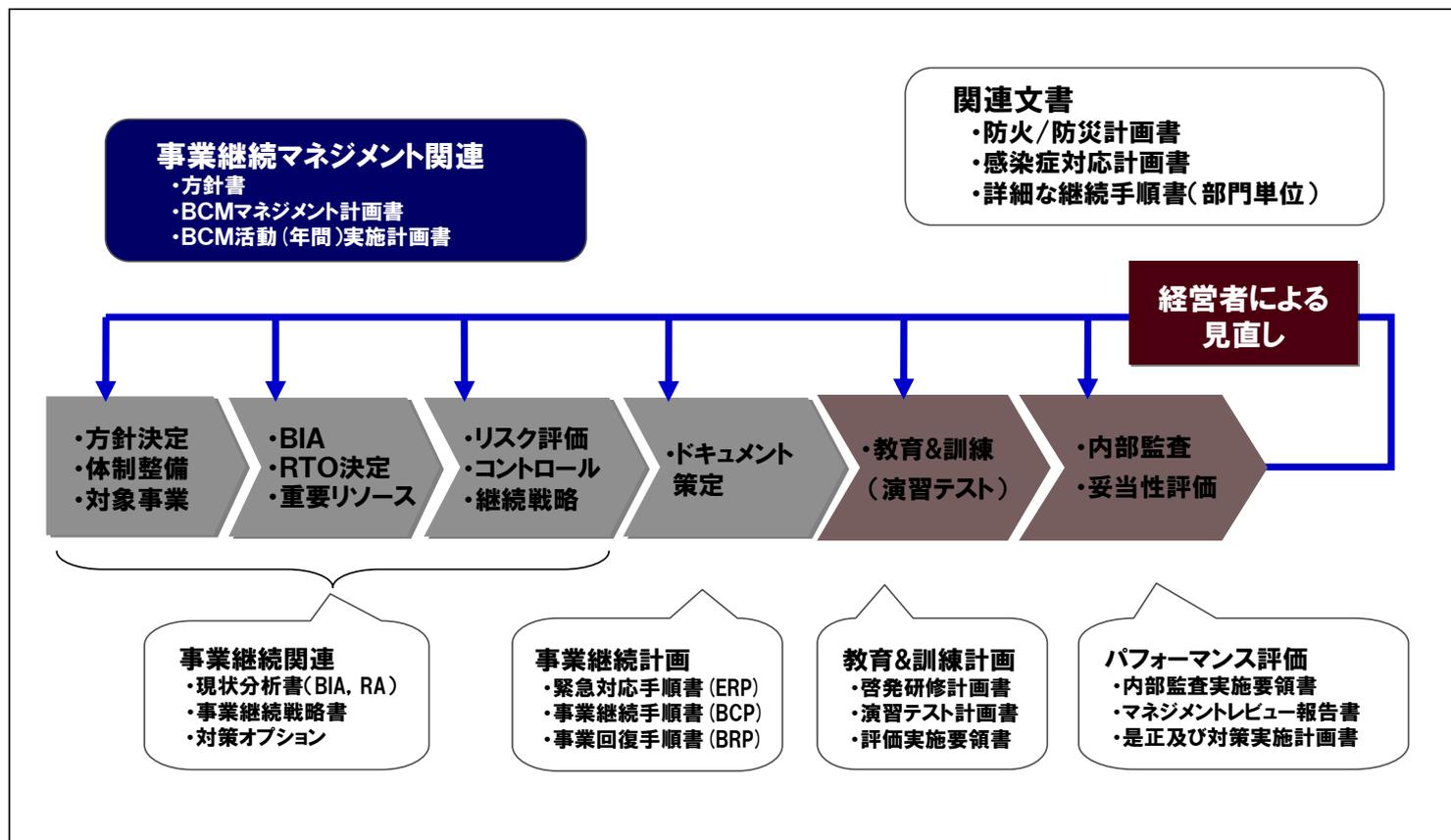
1. 概要
2. 維持管理のための計画立案
3. 教育・訓練及び演習
4. パフォーマンス評価
5. 経営者による見直し
6. BCM維持・改善
7. BCM維持管理における課題
8. ドキュメント体系
9. 参考資料

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

BCM手引書より(抜粋)

組織運営における重要なことは、全従業員(職員)が事業継続を日常業務のマネジメントプロセスに組み込み、コーポレートカルチャーとして組織文化へBCPを浸透させることである。

そのために、不測の事態発生時に備えた訓練(演習)の実施、及び点検・是正処置により、BCMを評価し、継続的な改善を図り、**事業継続能力を向上させるために必要な計画を立案する。**



※ 本資料の文責は研究会にあり、BCA0全体の見解ではありません。

用語の整理

メンバー間で用語の解釈を発表しディスカッション

違った解釈も知ること、正しく理解し適切に使う

BCM手引書の付属書

ウィキペディア、知恵袋をイメージ

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

用語の整理

用語をひとつづつノート形式で解説。2013年度継続活動予定

BCP/BCM関連 用語

BCP維持管理研究会

BCP/BCM用語 ノート

	項目
用	手 安否確認
用	手 ITサービス継続マネジメント
用	手 インシデント
用	手 インシデントマネジメント計画
用	手 インシデントレスポンスプラン
用	手 エクササイズ(テスト、訓練、演習)
用	手 エマージェンシーレスポンスプラン
用	手 危機管理
用	手 机上訓練
用	手 業務継続計画
用	手 クライシスマネジメント
用	手 コントロール
用	手 災害時優先通信
用	手 最大許容停止時間
用	手 事業インパクト分析
用	手 事業継続戦略
用	手 事業継続マネジメントシステム
用	手 事業復旧計画
用	手 初期対応計画
用	手 ストリートワイド訓練
用	手 ディザスタリカバリ
用	手 トリアージ
用	手 ハイレベル事業インパクト分析
用	手 パンデミック
用	手 目標復旧時間
用	手 目標復旧地点
用	手 目標復旧レベル
用	手 リスクアセスメント
用	手 リスクコミュニケーション
用	手 リスクシナリオ
用	手 リスクファイナンス
用	手 レジリエンシー
規	ISO 22301 事業継続マネジメントシステム—要求事項
規	ISO 22313
規	ISO 22398
規	BS 25999
規	ISO 27031 IT-BCPの国際ガイドライン

見本

凡例：用＝用語、手＝「事業継続マネジメント(BCM)維持管理のための手引書」
規＝BCM関連規格類

用語

インシデントマネジメント計画 (IMP)

解説

IMP(インシデントマネジメント計画)とは、組織がインシデントや中断に直面した際の初期・初動対応のアクションプランを示した計画文書

事例等

事業継続・復旧活動に入る前段階におこなうアクションについて記載することになっているが、次段階の計画と切り離して制定することが困難な場合もある。その場合は、BCP(事業継続計画)の一部として制定することも可能。

ISO22301 8.4「事業継続手順の確立及び導入」では

8.4.1 一般

組織は、事業影響度分析で設定された復旧の目標に基づいて、業務の中断・阻害を引き起こすインシデントに対処し、活動を継続するための事業継続手順を確立し、導入し、維持しなければならない。

組織は、活動の継続及び業務の中断・阻害を引き起こすインシデントへの対応を確実にするための手順(必要な取り組みを含む)を文書化しなければならない。

手順は、次のようなものでなければならない。

- a) 組織内部及び外部の適切なコミュニケーション手順を確立する。
- b) 業務の中断・阻害によるべき緊急処置が明示されている。
- c) 不測の脅威、及び組織内外の状況変化に柔軟に対応する。
- d) 潜在的に業務の中断・阻害を引き起こす恐れがある事象の影響に焦点をあてる。
- e) 所定の前提や相互依存の分析に基づいて策定される。
- f) 適切な軽減戦略の導入によって、影響を最小限に抑えることに効果的である。

8.4.2 インシデント対応の体制

組織は、インシデントに対処するために必要な責任、権限及び力量を持つ要員を用い、業務の中断・阻害を引き起こすインシデントに対応するための手順及び運営管理体制を確立し、文書化し、導入しなければならない。

対応体制は、次のようなものでなければならない。

- a) 正式な対応を発動させる事態のレベルの基準を決定する。
- b) 業務の中断・阻害を引き起こすインシデント、及びその潜在的な影響の性質や程度を評価する。
- c) 適切な事業継続対応策を発動する。
- d) 対応の発動、運用、調整、コミュニケーションのためのプロセス及び手順を備える。
- e) 影響を最小限に抑えるために、業務の中断・阻害を引き起こすインシデントに対処するプロセス及び手順を支える資源を確保する。
- f) 利害関係者及び関係当局、並びにメディアとのコミュニケーションを行う。

組織は、人命を最優先とし、また関係する利害関係者と協議し、重大なリスク及び影響について外部に伝えるか否かを決定し、その決定を文書化しなければならない。

伝える決定を下した場合には、組織は、必要に応じてメディアを含め外部へのコミュニケーション、警報及び警告のための手順を確立し、導入しなければならない。

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

災害対策本部発動訓練

架空の会社を想定

- 精密機械の製造・販売
- オーナー社長
- 東京都江東区に工場・本社
- 従業員150名
- 自動車メーカー、海外との取引あり



被災シナリオ：

**地震発生（社長は不在）、停電、断水、工場被災、帰宅困難
来客が負傷、社員が外出先で負傷、近隣小学校から支援要請
病院（顧客）からの修理依頼**

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

災害対策本部発動訓練

3チームに分かれて訓練
担当を決めてロールプレイ

- 危機管理マネージャー
- 戦略担当
- 資源管理担当
- 庶務財務担当
- 事業継続担当

(役割は前月に説明、グループ分けとシナリオは当日発表)



ファシリテータ・シナリオ作成： 中谷副座長

アドバイザー・社長役： 深谷座長

グループ発表で課題を共有

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

訓練参加者の気づき（情報管理）

- 情報整理が重要でありリソース管理用のツールが必要
- 各種情報記入用フォーマットの事前準備と記録係が必須
- 情報収集や伝達がリアルタイムでできる体制が必要

- 事前に様々なドキュメント（近隣地図・病院・避難所）の準備が必要。
- 津波の危険性の確認など、距離感を把握する地図

- ホワイトボードは共有する情報のみを記入すべきと思った
- 情報の整理をリソース別に分類したのは良かった
- 5W1Hを意識して情報整理が良い
- 詳細に数字に合わせて、全体が分かる合計数も必要（在籍者数、負傷者数）

訓練参加者の気づき（被災時の判断）

- 緊急対応の優先順位付け（トリアージ）の重要性を再認識
- 迷わないための判断ルールが必要
- 少人数で意見をまとめるのが大変だった

- 生命に関する判断の難しさを感じた（病院顧客への対応、負傷者、社員の家族の負傷）
- 自社から微妙な距離にいる負傷した社員の扱いに悩んだ

- 地域の人が避難して来たとき、名簿を作るアイデアは良かった
- グループ内で知恵を出し合うことができてよかった
- 初動ではBCPに目を向ける余裕がなかった

訓練参加者の気づき（その他）

- 初期の救命救護ができ、医療機関に頼らないことが必要
- 本部と現場の違いは、本部は一步先を見て指示が出せること

2013年度の活動予定

1. BCP訓練の実施

- ・ IT復旧訓練などの別シナリオ

2. 被災地の視察

- ・ 候補地検討中

3. 用語集の作成（継続）

4. 関連団体のBCP研究

- ・ FISC、ISO等

5. 外部講師を招いた意見交換

- ・ オリエンタルランドでの研修参加

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。



活動に関するお問い合わせは

研究会メンバ または

座長深谷まで

(sfukaya@fukayaresilience.com)

特定非営利活動法人
事業継続推進機構
BCP維持管理研究会

A Specified Non-Profit Japanese Corporation
Business Continuity Advancement Organization (BCAO)